



インドネシア

BOP層家庭訪問調査レポート

- 調査実施日：2013年9月
- 調査場所：東ジャワ州スラバヤ市ダルモ地区
- 調査対象：アグス(仮名)さんの一家
- 換算レート：100インドネシアルピア≒0.85円(2013年9月末)



アグスさん夫妻



家族構成

妻1人、子供2人の4人家族。子供は大学生(私立大学で経営学を勉強)と中学生。

アグスさんの兄はマレーシアへ出稼ぎしており、両親が存命中は仕送りがあったものの、他界した今、仕送りはなくなった。

世帯収入

コンビニの警備の仕事で月に60万ルピア程度の収入がある。妻はカンブン(集落)内で野菜を売っており、その収入が月に50万ルピア程度ある。野菜は近所のパサール(市場)から仕入れる。

職業

2年前から近くのコンビニ(アルファマート)で警備の仕事をしている。それ以前は、25年間、塗装工を務めてきた。



住居

自宅周辺に親戚が住んでいる(60世帯のカンブンの中で4世帯が親類)。



妻が野菜を売るスペース



住んでいるカンブン(集落)の入口。



自宅の全景。鳥を飼っている。

家には家族が1960年頃から住んでいる。これまで3回、自前で改修した。部屋は寝室と居間の2部屋で、寝室の隅にキッチン台があり、煮炊きは家の外の排水路の上で行っている。全部で15~20㎡程度の狭い家。



寝室とその脇の調理台



煮炊きは家の外の排水路の上



排水路の上も活用。水は溜め置き



冷蔵庫に野菜などを保管



居間の天井



居間というより物置のような部屋

自宅のほかに、排水路を挟んだ反対側にある兄の家(マレーシアへの出稼ぎで留守)で沐浴・洗濯のほか、2人の子供の寝室となっている。水道は1カ月前に通じたが、それまでは井戸水を利用していた。



入ったばかりの水道の栓



左側の入口がアグスさんの兄の家



食事

質素な食事・調理

料理は、豆腐、テンペ(大豆の発酵食品)、野菜とご飯といった質素なものである。週に1回は干し魚、週に2回は鶏肉を食べる。材料は毎日、パサールで仕入れる。

JETRO

Copy rights(C) 2013 JETRO. All rights reserved.



時間

起床は午前1時。夫婦2人で毎朝パサールへ行き、妻がその日に売る野菜を購入。帰宅後、午前4時頃から朝食の仕度。午前7時前に子供たちが学校へ。
アグスさんは午前10時～午後2時にコンビニで警備の仕事。妻は自宅で野菜売りをする。

訪問後の感想

アグスさんの家族は、収入は少ないながらも、自宅周辺に住む親戚などと助け合いながら暮らしている様子が見ええた。まさに、一種の擬似的な共同体であるカンブン(集落)のメリットでもある。

妻の野菜売りは、自宅での毎日の食卓で使う食材も兼用している。冷蔵庫は余った野菜をしばらく貯蔵するためのもので、毎日買う食材を有効に活用している。

また、自宅には浴室がないので、マレーシアへ出稼ぎに行き留守である兄の家も使わせてもらう、といった融通が利いている。

生活は決して楽ではないはずだが、コミュニティとしてお互いに助け合いながら生活することで、無駄な支出を回避し、様々に融通し合いながら生活することで、精神的な部分も含め、生活の過不足をうまく補っている様子である。鳴き声を競わせる鳥を飼う、といったことから、彼らの生活におけるゆとりを感じるほどである。

BOPマーケティングの観点からは、このコミュニティ内での助け合いの構図を壊すことなく、それを生かす形への配慮が求められるだろう。単に物を売るというだけでなく、どのようなサービスがコミュニティの力をより生かし、生活を豊かにしていけるのか、という発想が必要な気がする。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。